



とんどで喜ぶ子どもたち
(昭和30年頃)
生名村写真史編集委員会
「ふるさとの想い出 生名
島」昭和62年より

ふるさと 上島学への招待

③



上島町教育委員会
有馬 啓介

子どもの時代

昔から日本では、「数え年で7つまでは神のうち」とされました。これは、現代に比べて医療・衛生面で恵まれなかった時代、命が不安定な状態であった乳幼児を表した言葉です。神に近いことから、聖なる存在として大切にされ、七五三のお祝いでは、子どもが無事に成長したことに感謝し、これからの健康を祈願しました。幼児期を過ぎてから15歳前後までの間、子どもは一人前の人間として生きていくための能力や感受性を身に着け、大人の仲間入りをしていきます。上島町内の中学校で行われている『少年式』は、かつての元服に由来しています。

明治時代となり、日本が近代国家として歩み始めて以降、子どもの教育は、学校に期待されることが多くなりました。一方、生活や労働の中での教育や

地域（共同体）社会での教育も大きな役割を担ってきました。地域での行事は、子どもにとっての成長の場でもあります。『とんど』、『十七夜』、『天神さん』、『地藏盆』、『くんち』、『秋祭り』、『亥の子さん』…。子どもひとりひとりに役割があり、そこで地域で生きることを学びました。

民俗学者の宮本常一は、「日本人にとっての未来は子供であった。自らの志がおこなえなければ、子供にこれを具現してもらおうとする意欲があった。子供たちにも、またけなげな心構えと努力があった。」（宮本常一『日本の子供たち』岩崎書店、昭和32年）と語っています。子どもは地域の宝であり、いつの時代も生き生きと育てほしいものです。

人がいなくなるということ

「兄ちゃんのだし入れといて」とおばちゃんに言われ、その数日後におばちゃんが入院したと聞いて、しばらくしておばちゃんは亡くなりました。

新聞やテレビで、人口減少が叫ばれ、過疎や限界集落等の報道を耳にしても、実感が無かったのですが、今こうして魚島で生活することで、人がいなくなることをより深く考えるようになりました。昔魚島には1,000人以上の人がいて、魚がたくさん獲れて、今より活気があったと伺います。昔を知らない僕としては、今の魚島は島にいる人が顔見知りで、海が身近に感じられるとても魅力的な場所に感じます。

そんな魚島で商店を開店し3カ月程が経ちました。運営において手探りだった部分もある程度の要領がわか

り、比較的スムーズに出来ることも増えてきました。更なる向上を目指し努力したいと思います。

さて先日大三島から、初めて魚島に来られた方とお話する機会がありました。その方は新聞で魚島の記事を読み興味を持たれたそうです。1時間程魚島港周辺を散策されました。関心を持たれた理由や、どう映ったか伺うことは出来ませんでした。足を運んで頂いたことに嬉しく思いました。商店としても観光される方が気軽に立ち寄れるようなお店を作りたいと思います。

取り留めのない活動報告になりましたが、暑い夏に向け、たくさんの方に来て頂けるよう頑張ります。



島おこし 協力隊 活動報告



島おこし協力隊
吉田 浩士



弓削高等学校

<http://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>

県総体地区予選に4種目出場

県総体東予地区予選出場

平成27年の4月に、愛媛県高等学校総合体育大会の東予地区予選が行われました。今年は、4種目出場しました。男子テニス部の時本真弥さんは「各自の課題が見つかった試合になりました。県総体には団体戦で出場することができるので、課題を克服できるよう、日々の練習に励んでいきます。」と言っていました。女子ソフトテニス部の浪切奈々さんは「初心者+新しいペアでの試合でしたが、チーム目標の『勝つチームより、まず良いチーム』を心掛けて頑張りました。」と言っていました。卓球部の青木愛海さんは「弱点

や強みを理解するいい経験になりました。まずは、新入部員を獲得して団体戦にも出場したいです。」と言っていました。バドミントン部の田中龍齊さんは「練習の成果が出て良かったです。次の県総体が3年生最後の試合なので応援よろしくお願います。」と言っていました。



伊予銀カップU16東予地区予選出場、県大会へ

平成27年5月23日(土)に第24回伊予銀カップジュニアテニス大会U16東予地区予選が東予運動公園で行われました。1年生の西倉季樹さんが出場し、代表決定戦で勝利を収め、県大会出場が決まりました。「自分なりのプレーができてよかった。次は一球一球を大切に全力で打ちにいきたい。」と言っていました。




弓削商船高等専門学校

<http://www.yuge.ac.jp/>

練習船「弓削丸」の体験航海

練習船「弓削丸」が

「尾道みなと祭」に参加

本校の練習船「弓削丸」が、毎年恒例の「尾道みなと祭」に平成27年5月2日(土)・5月3日(日)に協力参加しました。



今年も「弓削丸」を出航させ、「体験航海」や「船内一般公開」を実施し、尾道地域の海事都市の発展に努めました。

「体験航海」は毎年人気のイ

ベントで、おのみち海の駅から近隣を約1時間クルージングします。多数の申込者の中から抽選で選ばれた108名の親子連れが参加しました。参加者は、船上及び操舵室等で教職員や学生の説明に興味深く聞き入っていました。また、子供たちが実際に舵を操作することもでき、目を輝かせて熱中していました。



「船内一般公開」では、小中

学生や親子連れなど155名が訪れ、普段見られない船内をゆっくりと見学しました。

低炭素社会実現に向けた 気候変動キャンペーン

『Fun to Share』へ参加

昨年度末、本校が低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン『Fun to Share』の賛同団体として認定されました。本校の取組のテーマは『ひとりひとりの主体的な取組みで低炭素社会へ』です。

今後、各賛同団体と情報を共有し、本校での環境保全活動等に活かしていきたいと考えています。